

第8回 小中一貫教育懇話会

議事録 要旨

- 1 開催日時 平成 25 年 10 月 16 日(水) 19:00~21:00
- 2 開催場所 生駒北小学校多目的室
- 3 参加者 小柳和喜雄（奈良教育大学教職大学院教授）、中谷辰幸（生駒北小学校育友会長）
影林保志（生駒北中学校育友会顧問）、正田文敏（打田・高船保護者代表）
井上園子（「i どばた会議」共同幹事）、藤堂宏子（ひかりが丘自治会会長）
窪田博明（久保自治会顧問）、十文字良明（生駒北小学校長）
本田善藤（生駒北中学校長）、柳田富恵（生駒市校園長会長）
富山二郎（生駒北小学校教諭）、政岡俊伸（生駒北中学校教諭）

4 開会あいさつ （峯島部長）

5 質疑応答

座長 : 今回は懇話会としての方向性をまとめることになっている。前回皆様から簡単な文書にまとめた方がいいという意見が出て、懇話会だよりと議事録をもとに原案を立ててみた。これまでの資料等を思い出しながら考えてもらいたい。

（資料「生駒市小中一貫教育懇話会のまとめ（案）」を読む）

「学力の向上」は「さらなる学力の向上」に、「教員の指導力の向上」は「小中教員の組織的な指導力の向上」にする方が適切だと考えている。ウェブ上の議事録と懇話会だよりを参考にして作成したが、これらに合わないところがあればご指摘いただきたい。各所属の意見を収集してもらってと思うので 5 分程度でご意見を承りたい。

参加者 : 大まかな流れはおっしゃる通りだ。学力向上については、座長の通り「さらなる」を入れた方がいい。先生の数が減っていることがいつも気になっている。人口が減っている中での話し合いなので魅力的な学校で転入が増えること、それにより教員の数が増えることを願う。特別措置として 35 人学級のことも含めて考えてもらえるとありがたい。

参加者 : うまくまとめていただいた。前回の懇話会の時も話をしたが、保護者アンケートを取ったら約 4 割が賛成で、少数ながら反対意見もあった。また、一貫校に対して多くの不安や疑問の意見も寄せられた。最後のまとめの一文を読むと、話し合いで出された意見が設置に向けて生かされるということなので、『保護者アンケートを採ったら約 4 割が賛成で、少数ながら反対意見もあった。また、一貫校に対して多くの不安や疑問の意見も寄せられた。』を書き加えていただきたい。また、「生かされることを望む」ではなく、「活かされなければならない」にした方が、我々の意見が反映され

るまとめになるのではないだろうか。

参加者 : 前任者の後を引き継いで途中から参加した。最初は批判も多々持っていたが、この地域が小中一貫教育という形で教育を手厚く進めていこうとしていることに敬意を表したい。大原の視察で感じたが、校長を一人にすることで教員の数を増やすことが必要ではないかと感じている。

参加者 : 北小校区の自治会長と懇話会の自治会代表で10月2日に大原に行き、自治連合会の会長と地域の方の話を伺いに行った。大原の自治連合会の活動にカルチャーショックを受けた者もいた。地域の方の、地域をよくしていきたいというパワーと行動力がすごかった。地域から学校がなくなるといふ危機感から地元が立ち上がって小中一貫校として学校を残すことになった経緯も分かった。現在、学校運営協議会等で地域の方が学校にかかわっている。市街化調整区域だが一部の地域の規制を緩和して外部の人も住めるようにするなど、学校のことを含めた街づくりの計画を、トップダウンではなく自分たちで考えて冊子にまとめ、それを見た行政と一緒にやろうということになったらいい。小中一貫校の設立にあたっては、地域も一緒になっていくということから、学校運営協議会のことも含めて考えてもらいたい。

参加者 : うまくまとめていただき感心している。学力の向上も体力の向上もその基盤は道徳。規範意識の醸成は道徳であり、小中一貫校を作った時にその土台としてこのことを大きな目標に掲げてもらいたい。学力のさらなる向上は保護者の願いである。塾に通わなくても学力が向上するのが理想である。保護者・家庭・学校・地域の力を結集し、道徳や倫理の学習活動を推進してほしい。

参加者 : とても上手にまとめていただいた。「学力のさらなる向上」、「組織的な指導力の向上」としてもらえるありがたい。後半はきれいにまとめすぎているように感じる。懇話会メンバーの話し合いでは地域、保護者、学校が一体となって地域の活性化を図りたいという方向性だが、保護者で地域の活性化を望んでいる者が多いかという疑問である。不安が多いが、話し合った結果、前を向いていこうとなったことを付け足して欲しい。いろんな意見を聞いてもらえるという確証を感じるからがんばろうと懇話会のメンバーは思うが、関わりきれていない人にとってはそうは思えない。だから最後の部分は「生かされなければならない」にしてほしい。

参加者 : 異論はない。小中教員の協働による学習指導や生徒指導を通じた教育力の維持向上を図りたい。来年は1年から6年まですべて1学級になり、特別支援学級も減るので教員数は4名減となる。どうやって加配教員をもらうか悩むところだ。少しずつ子どもの数が減っている中、早く小中一貫を取り入れ、地域の皆さんとともに生駒市で初めての素晴らしい施設での小中一貫校を作っていくたい。

参加者 : 懇話会であったことが書かれている。北中のことについては厳しい意見もいただいた。これらは受け止めなければならないが、現在の教員の一生懸命取り組む姿も見てもらいたい。北小北中に望むこと、というのは一般的にどこの学校にも言えることである。組織的な指導力の向上や特色ある教育課程はプレッシャーになっていて不安だ。教員を増やせば教員の負担を減らすことができる。そうしてもらえると嬉しい。

参加者 : うまくまとめていただいた。小中一貫教育はこの地域だから必要な取組だと思っている。茶釜の里、文化の最先端、生駒市で最初の小中一貫校だということで不安もあるが頑張してほしい。新しいことを始めるのは不安だが全く初めてではない。他でやっているところもあり、成果も上がっている。だからこの地域にとってはプラスだと思う。新しい教育が始まるなら挑戦してみたいと言

う教職員も生駒市にはいる。小中両方教えたいという積極的な先生もいることを知ってもらいたい。

参加者 : さらなる学力の向上、組織的な指導力の向上、に替えてもらえるのはありがたい。来年北小は1学年1学級、教職員4名減で、担任一人で事務や教材研究等すべてやらなければならない。クラスの人数が35人を超えると経験上仕事量が増える。子どもの数を何とかして増やし、そのことで学級数を増やしたい。教職員の負担を減らすには協働体制を作ることが必要だと感じる。市街化調整区域をどうするかについても街づくりの一環として市は考えてほしい。子どもの数を増やすことは地域活性化を抜きにしては語れず、小中一貫校はその起爆剤となる可能性がある。学校や地域が頑張ればいいというのではない。市の積極的な支援が必要で、そういったことも入れて欲しい。

参加者 : 文脈にいろんな意見を入れるのは大変だったと思う。最後の一行が文脈を支配している印象を受ける。懇話会がどちらかに決めるということでない。指導力向上ということについては十分ご配慮いただいた。小中学校の組織的指導体制はゼロなので、その向上というよりは構築になるかと考える。最後の一文に未だ違和感を感じている。いくつかの課題の解決は見通しが現時点では感じられない。最終的な責任を持つ我々教師は非常に不安であり、懇話会の温度と学校現場の温度にかなり差がある。前回参加者の1人が言った「覚悟を決めた」という一言が印象に残っていて、我々がここにいて覚悟を決めればいいのかと思った。我々公務員は決まったことには懸命に努力する覚悟はできつつある。しかし、好んでそこに行くということではない。腰を据えていくよ、ということだ。それに応えるだけの生駒市の覚悟が現場では見えない中でなされるなら、日本一のものを作っていたらかなければ納得はいかない。新しい教育課程を考えるのは教務主任だと思うが、現状でも教務主任は4月から土曜日曜も出勤してやっている。その中で新しい教育課程を作るとなれば、人の手配がないとやっていけない。地域の期待は非常に大きい。我々はその声に応える責務があるが、今の状況でそれに応えるのは非常に厳しい。この文章に入れることではないが、行政のサポートが必要だ。それから幼児教育に大きな変化があるが、それとこれとが一体であるなら評価や議論の場が必要である。幼稚園や保育園の保護者の意見を汲み上げていないことに若干の不安を感じている。

座長 : 建設的な意見を賜った。今から皆さんと一緒に、懇話会のまとめに入れた方がいい意見と、今後考えていくといい意見とに分けていきたい。前半の「これまでの」から「さらに」までは今までの懇話会の流れである。大きな変更は無いということでもいいか。(了解)問題は後半部分だ。出てきた意見は書くようにした。学力向上については現在も取り組んでいるので、さらなる向上にする方がいいと思った。教員の指導力の向上を組織的指導力の向上に変えたが、小中教員の組織的指導体制ができていない状態なので、先ほどご意見があったように構築の方がいいように思う。魅力ある学校づくりについてはどうか。まず大事なことは子どもが増えることで、そのためには魅力ある学校づくりでないと、ということだった。特色ある教育課程はプレッシャーだという意見もあった。

参加者 : 特色ある教育課程を備えなければ周辺から人は来ない。だから必要だ。大変なことはよくわかっているが、取り入れていくべきである。

参加者 : 充実した設備で文を切ると、設備だけなのかということになるので、前にも魅力ある学校を入れなければならないと思うが、魅力ある学校が重複してしまう。

座長 : 下に魅力ある学校づくりがあるので、上の魅力ある学校づくりをとる。次に地域の活性化を図るということ、不安を持っている方もいるということ、この2つを入れることについてご意見をいただきたい。

- 参加者 : 保護者の主たる関心は自分の子どもがいかにかうまく成長してくれるかである。地域の活性化についてまでは関心が向きにくい。地域の活性化に関心を持てるのは子どもが卒業したりして地域から学校を支える立場になってからだろう。しかしそれを文中に入れてもらわないと、自分の子どものために活動していることが地域活性化につながることに気づかないままだ。
- 座長 : 「さらに」からは一文が長いので文を区切ることにする。教員に不安や負担があることについて考慮してほしいという意見もあったが、それはどうか。
- 参加者 : 保護者も教員数を増やすことを切望しているので書き入れてほしい。親は教員数が4人減ると聞くとぞっとすると思う。親としても先生の負担をこれ以上増やしたくないので書いてもらおうと親としてありがたい。
- 座長 : 教員の人数を増やして欲しいということを入れる。
- 参加者 : 表現はお任せするが、教員の人員配置に配慮し、市からの様々な支援を望んでいることを入れて欲しい。
- 参加者 : 文章にするからまとめにくいのではないだろうか。文書の構成上きまりがあるなら仕方ないが、箇条書きで羅列した方がよくわかるのではないだろうか。
- 座長 : 箇条書きで書くにしてもどういう文言で書くのが難しい。教員の不安や負担を考慮し、市からの支援を入れてほしい、ということなのか。
- 参加者 : こんな意見が出ました、でいいかもしれない。その方が分かりやすい。そこから懇話会の流れを汲みとってもらえたらいいのではないか。
- 座長 : 箇条書きに近い形で、出てきた意見がそこに含まれるように工夫して書くことにする。学校運営協議会の設置についてはここに入れるのか、後々推進委員会とかが立ち上がってきたらそこで議論するのかが、「いっしょに作っていこう」という意見だったので、今回、そこは触れず今後考えることにする。アンケートの結果の取扱いだが、少数ではあるが反対も見られた、多くは不安を持つという意見が多かった、ということを書くのか。
- 参加者 : 少数だが反対意見もあったし、不安や疑問を抱く保護者もいた、ということを入れてほしい。
- 座長 : アンケートを入れ込む。不安や疑問を抱く意見も多く出された。しかし最終的には前を向いていこうという流れになった、このようなことになるのか。他に落ちていることはあるか。
- 参加者 : 問題の根本は人口の減少である。行政の重要な課題としてこれを位置づけ、それが教育の充実につながるということを可能なら入れて欲しいが、小中一貫教育と直接的なかわりはないので割愛されても構わない。これは行政の大きな課題だ。
- 座長 : 街づくりについてどう入れるかだが、ご意見として承っておく。不安や負担について私の判断に任せていただけるなら私が書いて表す。最後の一文を入れるか入れないかについてはどうか。
- 参加者 : 話し合いで出てきた意見については行政として汲み取ってほしいということは書くべきだ。
- 座長 : 最終判断は我々ではないので推進委員を作って頑張っていこうという雰囲気になってきたことは議事録や懇話会だよりでわかると思うが、このことを書いておくべきかなと思う。最後の一文を入れてもいいということではどうか。
- 参加者 : 多様な反対意見があることも含めて「生かされるべき」という意味でも最後の一文を入れるべきだ、ということだ。
- 座長 : 前半は案通りで、後半はみなさんの意見を反映し、先ほど文言確認したことや、アンケートの声

も入れるということでもいいか。

参加者 : 細かい部分はお任せする。箇条書きでいろんな意見を併記すると、多数の意見と少数の意見を並列することで、それが同じ重みを持つてしまう。言葉が一人歩きするのでその点はある程度考慮して記載してほしい。

参加者 : 基本的に玉虫色にならないようにしてほしい。結論として最後の文言があるわけだから。

座長 : 大筋と少数意見を書き分けるということである。この回に至るまでアンケートや視察、説明会など情報不足による不安と向き合ってきた。その中で骨子が見えた方がいいということでイメージなどで表した。これまでの意見を受けて修正し、事務局から参加者に送ってもらうということでもいいか。

事務局 : 座長の今のまとめを修正し、皆さんに示して確定ということになるが、それでいいか。座長の校正でいいか。それを確認したい。

座長 : 修正して懇話会のまとめをする上で一度預けていただくということでもいいか。(了解) 確実に意見を反映できるようにしたい。今後の進め方について事務局から説明してもらう。

事務局 : 懇話会のまとめは教育委員会で報告する。最速では10月22日の夕方である。そこで報告できたらと考える。教育委員会自体はもともと小中一貫教育を進めたいという考えなので、懇話会の報告を受けて確認していくという流れになる。懇話会は本日方向性をまとめていただいたが、これで終わりではなく、今後は施設設備等具体的なことを決めるにあたり、引き続いて懇話会を随時開催していきたい。参加していただくのはこの皆さんで、今後人事異動等変更が生じたら事務局に報告いただき、団体の枠組みとしては今の通りで行きたい。設置場所等について今後改めてご意見を聞きたい。

参加者 : 懇話会は一定の方向性を出す10月で終了するという認識で参加している。このあと教育委員会や議会を通過して、というところがよく分からない。

事務局 : 予算がつかないと実際の設計はできない。とりあえず教育委員会として方向を決定し、それから議会へ報告、そして予算の提示という流れになる。皆さんの民意はどうなのかというのが議会の意見だったので、これを提出する。

参加者 : 市の方針は議会を通して最終決定される。懇話会は小中一貫教育をどうするかということを考える組織だったので、報告書を出した時点で一度閉じてもらい、設置場所をどうするか、どういう学校を作るのかについては準備会などの名称で召集するのがすっきりしていいのではないか。

事務局 : そういう意見があることが今日分かった。議会に提出するにしても場所はどうなるんだということになり、設計も場所が決まらないとできないので先ほどのような提案をした。しかし今後のことについても一度事務局で考えて連絡する。

参加者 : 若い者にバトンを譲るつもりだ。どんな学校にしたいかかは年上の者より若い者が考えた方がいい。

事務局 : 組織として先生、校長、保護者、自治会の意見は外せないので枠組みはこのままで行きたい。役員の変更などがあるが、この枠組みは懇話会発足からのルールである。

参加者 : 今の事務局の説明が分からない。移行するなら会議体の性格付けをはっきりさせるべきだ。次の会議体に何を期待するのか。懇話会のメンバーでいくということだが、そんなあいまいなものではないのか。

- 事務局 : ここで一旦閉じて、推進委員会ということでまたスタートを切るという意見が大勢のようだ。事務局としては本日は通過点で方向性を座長にまとめてもらうという考えだった。私の一存では決められないのでとりあえず今日の意見を聞いて考えたいと思う。
- 参加者 : 大原自治連合会会長に聞くと、保護者、学校、地域からなる学校運営協議会ができていてどういう学校を作るか話し合いをしたようだ。運営協議会の設置も含めて考えていただきたい。
- 事務局 : 今後の検討課題にしたい。現場の先生にも聞かなくてはならないので、現場の校長先生と考えていく。
- 参加者 : 富雄第三でも大原でもこのような組織があり、推進協議会ができ、具体的にどう運営していくかを考える会ができ、3つの段階を踏んでいた。そのほうがスムーズに移行したと感ずるので参考にしてほしい。
- 事務局 : 推進に向かって市が引っ張られている感じがして頼もしい。今日の意見を十分に反映したい。
- 座長 : 懇話会は懇話する場である。いろいろ決めていくには名称を変えて目的を明確にして進めていかないといけないと感ずる。名称を変えて進めることについては事務局と詰めてはいなかった。
- 参加者 : 名前を変えて気持ち新たにしていきたい。やっと慣れて意見を交わせるようになってきた。小柳先生にはまだまだ協力していただきたい。
- 参加者 : 具体的な話や細かい詰めの作業や話し合い、特に特色ある教育課程を考える上では時間がかかるし、マンパワーが必要だ。来年度以降の教職員数を考えると厳しいものがあり、良いものを作っていくためにもサポートしてもらいたい。
- 座長 : 立ち上げ期にはパワーが必要で、かなりのバックアップが必要である。これで懇話会を閉じる。

6 事務連絡 (事務局)

7 閉会あいさつ (峯島部長)

2月14日が初回の懇話会で、教育長が地元の意見を聞いて方向を見出したいと話した。行政がもっと責任を持つという意見もある中、地元自身ももっと頑張ろうという意見ももらった。保護者代表のみなさんからは、義務教育をこれから受けようとする子どもの保護者からの声も聞こうという活動もしていただいた。従来の会議体では経験したことがないいろいろな活動を見せてもらい、途中からは事務局側が引っ張られるような感ずを持った。代表として参加していただいた方にこんなにも頑張っていたいただいた会はない。熱意を冷やすことなくつなげていくのが事務局のこれからの仕事。通過点と思っていた私たちだが、次の準備委員会の立ち上げをできるだけ早くスムーズに、そして地域の皆様の気持ちをまとめていくのが私たちの仕事かと思う。今日で懇話会が終了するという事だったら、教育長からご挨拶すべきなのに申し訳ない。

小柳先生には北中校区の小中一貫校設立について、今後も引き続きご協力をお願いする(参加者の了承)。また、「懇話会のまとめ」の監修をお願いしたい(参加者の了承)。